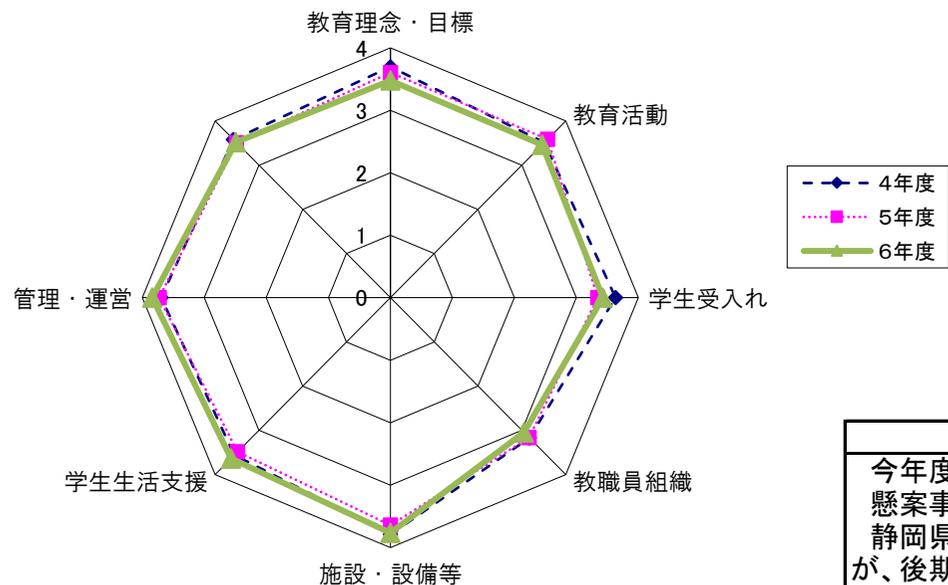


令和6年度 下田看護専門学校 自己点検・自己評価



中項目	4年度	5年度	6年度
教育理念・目標	3.70	3.60	3.48
教育活動	3.51	3.58	3.47
学生受入れ	3.63	3.35	3.43
教職員組織	3.17	3.17	3.05
施設・設備等	3.79	3.64	3.76
学生生活支援	3.56	3.49	3.64
管理・運営	3.70	3.73	3.84
平均(4点満点)	3.58	3.51	3.52

総合評価

今年度も、中項目において、3点未満の得点がなかった。
 懸案事項であった教員の定数確保が4年目に入り、落ち着いている状況となっている。
 静岡県からは、1名が資格取得中の教員であった為、専任教員不足との指摘を受けていたが、後期には、それも解消された。
 業務バランスの課題は続いており、その中でも、学生指導の複雑化による教員のかかわりの煩雑さは、年を追うごとに増加している。
 これは、学生の主体性および学力の低下に伴い、学生への携わりの度合いが累乗的に増していることが要因である。学生数は大きく減少しているが、労力は全く減少しない状況は、問題の複雑さを表している。
 少しでも学生の学力向上を図る様に、注力していることが、人的にも質的にも一層、負担を増加させている。
 令和2年度以降、入学生の定員割れが続いている。令和7年度募集は、定員を30名に削減したが、募集活動の初動の遅れが大きく影響し、令和7年度の入学試験受験者及び新入生はわずかな人数となり、学生の定員確保が、深刻な状況となった。学校の抱えるディスアドバンテージと少子化過疎化といった外的要因が複雑にからみ、今後の募集の困難さを顕在化させている。